

大豆情報第 4 号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

本年の7月から8月中旬までの気象は、平均気温は27.8℃（平年比+1.5℃）、降水量は408.5mm（平年比70%）、日照時間は449.7時間（平年比136%）と高温少雨傾向で推移しました。

大豆は現在開花始めで、生育は少雨の影響によりやや抑えられています。これから着莢期をむかえるため、次のことに注意して栽培管理を行ってください。

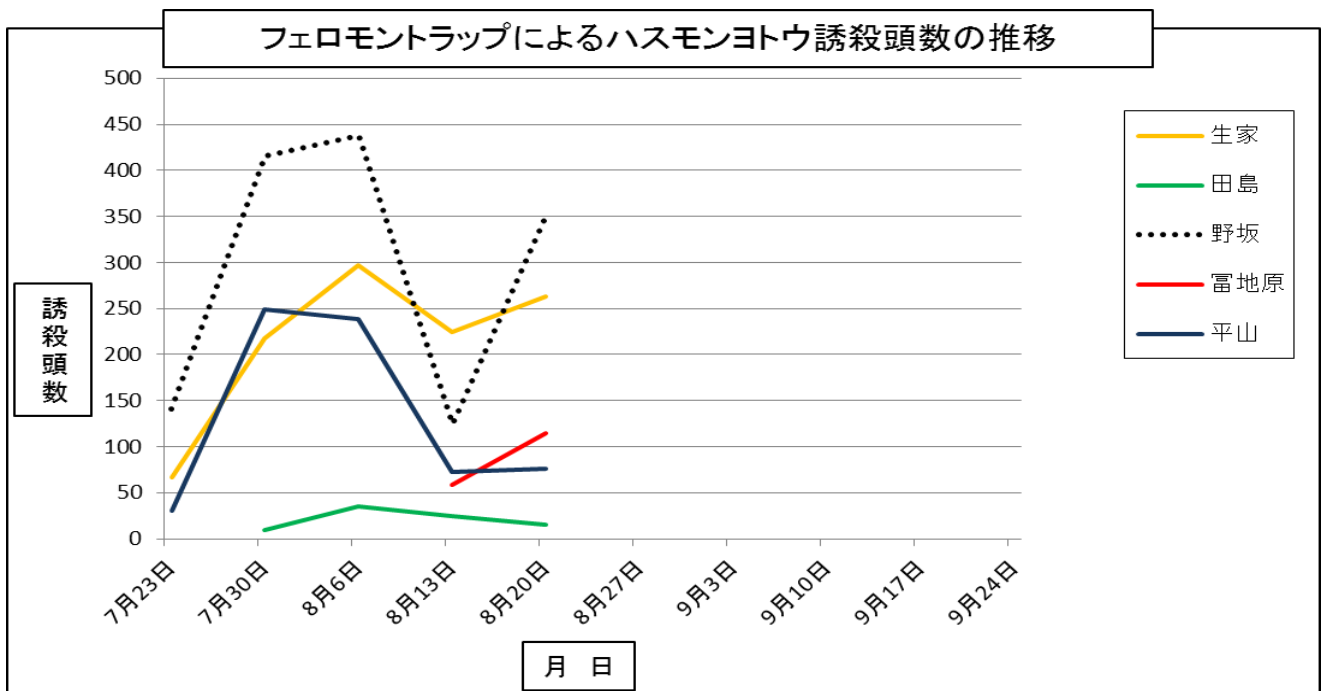
1. 雑草の除去

8月中にホソアオゲイトウ、アサガオ類などの難防除雑草が結実する前までに手取りを行いましょう。

2. 病害虫の発生状況と防除

(1) ハスモンヨトウ

フェロモントラップの誘殺数は下図のように8月上旬に誘殺頭数のピークが見られたことから8月20、21日に管内17ヶ所ほ場調査を行いました。その結果、管内での白変葉は平均で2株/aとなり、要防除水準の5株/aを超えている地域は1ヶ所だけでした。今後フェロモントラップの誘殺頭数が9月10日頃にピークを迎えると予想される為、9月中下旬頃が防除適期と予想されます。ただし、発生は地域やほ場で異なるため、白変葉や虫の発生状況を確認しながら防除を実施してください。



★ハスモンヨトウ防除（白変葉が5株/aを超えるほ場）

剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	使用量 (10a当たり)
液剤	プレバソフロアブル5 (4,000倍)	ハスモンヨトウ	収穫7日前まで	100ℓ ~150ℓ
粉剤	トレボン粉剤 DL	ハスモンヨトウ、カメムシ類	収穫14日前まで	4kg

(2) カメムシ防除

少雨傾向が続いており、多発生が予想されています。吸汁害による品質低下や青立ち株発生を防ぐため、カメムシ防除を徹底してください。また広範囲に移動するため地域で一斉防除を行いましょう。

(3) 紫斑病防除

紫斑病の防除適期は開花後3~5週目頃です。発生が多い場合は、その7~10日後にも防除を実施してください。7月中旬播きの開花期は8月下旬頃です。

★ハスモンヨトウ、カメムシ類及び紫斑病の防除

防除時期	剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	使用量 (10a当たり)
9月中旬 ~9月下旬	粉剤	スミチオンベルコート 粉剤 DL	紫斑病、カメムシ類、 マメシクイガ	開花期~若莢期 但し収穫21日前まで	3kg
	液剤	プレバソフロアブル5 (4,000倍)	ハスモンヨトウ	収穫7日前まで	100ℓ ~150ℓ
		スタークル液剤 10 (1,000倍)	カメムシ類	収穫7日前まで	
		トップジンM水和剤 (1,000倍)	紫斑病	収穫14日前まで	
10月上旬	粉剤	スタークル粉剤 DL	カメムシ類	収穫7日前まで	3kg
	液剤	スタークル液剤 10 (1,000倍)	カメムシ類		100ℓ ~150ℓ

※スミチオンは速効性で残効が短い。

スタークルは吸汁阻害により、残効が長い特徴がある。スタークルの使用は2回まで。

※プレバソフロアブルを2回使用した場合は、ノーマルト乳剤を2,000倍で使用して下さい。

★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄
- ④ 防除履歴の正確な記帳